

ハワイ日系人の用例に見るhaoleの社会的意味¹⁾

木 下 英 文

はじめに

相互作用における言語使用を考察すると、言語とアイデンティティの関係が必ずしも安定したものではなく、むしろ、話者の具体的動機づけに応じて、状況づけられた談話の展開の中で柔軟に調整されるものであることがわかる。Bucholtz and Hall (2005)が指摘するように、話者のアイデンティティは言語使用に単に反映されるというよりは、むしろ、会話参与者間の交渉過程で生み出されるのである。²⁾それは、含意、前提など間接的な手段によって構築される場合もあれば、言及対象が範疇化されることで明示的な形で付与される場合もある(Bucholtz and Hall, 2005:595)。

本稿が以下で主たる考察対象とするのは、後者のケースであるが、具体的には、ハワイ社会において主に白人を指して用いられるhaoleという名称が表す社会的意味を巡るものである。³⁾haoleの意味する内容については、後述するように、現地の母語話者間でも認識が分かれており、画一的に捉えることが難しいとされているが、本稿の分析では、ハワイ在住の日系人を主な対象として行われたインタビューに見られるhaoleの用法に着目し、それらを具体的コンテキストの中で考察することで、(1)haoleが付与する社会的カテゴリーにどのようなものがあるのか、(2)haoleおよびその他の類似表現が、同一状況下でどのような形で使い分けられるのか、の2点について分析することとする。⁴⁾

1. 定 義

*Merriam-Webster Online Dictionary*は、haoleの定義を"sometimes disparaging: one who is not descended from the aboriginal Polynesian inhabitants of Hawaii; especially: white"としており、この名称がとりわけ白人に対して用いられる点に言及している。⁵⁾しかしながら、haoleは、その語源であるforeignや、19世紀から20世紀にかけてサトウキビ農場の欧米的大規模経営を持ち込んだ米国本土出身の支配者階層への蔑称の意味合いも併せ持っており、必ずしも特定の人種に限定されて用いられるわけではない。⁶⁾Reed (2001)は、この点について、(1)のように述べている。

- (1) Haole is more than simply 'white'. It is historically and economically situated and encompasses a variety of cultural behaviours, sensibilities and a particular interactional style. (332)

すなわち、haoleの意味を解釈するには、歴史的・経済的コンテキストに加えて、言及対象の行動様式にも注意が必要であるために、haoleが持つ意味の多面性は、上記の定義からだけでは十分に捉えきれないのである。そこで、次節では、ハワイ日系人のインタビューという状況づけられた談話に見られる用例の検討を通して、haoleが表す様々な社会的意味について考えてみたい。

2. 状況に応じて様々な意味を表すhaole

2.1. 支配者階層としてのhaole

Whittaker (1986:142)は、19世紀以降にアメリカ本土よりもたらされた白人のステレオタイプである "privileged, arrogant, stupid, lazy, rich, and exploitative" が、haoleという名称に集約されていると指摘しているが、以下の(2)・(3)は、二人の被験者（以下IEとする）がそれぞれの子供時代を振り返ったコメント

の中でそのような支配者階層としてのhaoleを表現した例である。⁷⁾

(2) I don't think you can call it racism but we had a theater and in the theater we had reservation, all the reserved seats were for the haoles. Right in the middle in the best section. (IE-JT#03)⁸⁾

(3) Back when we were growing up, there were a lot of rich, haole people, and they were mostly concentrated in Lanikai. (IE-PC#10)⁹⁾

ハワイ社会における日系人は、中国人やフィリピン人と並んで、19世紀から20世紀にかけてサトウキビ農場における主たる労働力を提供したが、経営者はもっぱら米国本土出身の白人に独占されていた。ここでのhaoleは、そのような文化コンテキストを背景とした上で、言及対象に支配者階層のカテゴリーを付与する役割を果たしている。Bucholtz and Hall (2005)は、言及対象をカテゴリー化する表現に付随する表現がアイデンティティ構築のための重要な情報を提供すると指摘しているが、ここでは、"best" "rich" "I don't think you can call it racism"がそのようなhaoleのアイデンティティ構築に寄与している。¹⁰⁾

次に、(4)はIEが自身の配偶者との出会いについて語る部分であるが、ここでは、"haole girl"と "local Japanese boy"というそれぞれが属する社会的カテゴリーが明示されることによって、両者の社会階層の違いがコンテキスト化され、彼らの交際が当時の社会では好ましくなかったことが含意される。(cf. Gumperz, 1982)

(4) I did meet my wife at Seattle U. She's from Montana. She's a haole girl. ...We were just dating. Just the thought, you know, haole girl going out with this local Japanese guy. (IE-PC#13)

ただし、ここではhaoleが持つ支配者階層の意味合いは直接配偶者本人に付与

されるわけではない点に注意が必要である。すなわち、役割カテゴリーのように自己と言及対象とが相互に定義づけられる場合とは異なり、この場合の haole の使用は、(2)・(3)と同様、回想時の社会背景として存在したイデオロギーの描写を意図したものなのである。これらの例は、Bucholtz and Hallが指摘するように、集団のカテゴリーに付与されるアイデンティティが談話において様々なレベルで表現され得ることを示すものだといえる。¹¹⁾

次に挙げる (5)は、第二次世界大戦従軍で初めて米国本土へ渡ったハワイ出身の日系米兵が、上陸時に本土の白人労働者を初めて見た時の驚きを回想した部分である。

- (5) Yeah, I remember when the Lurline pulled in to San Francisco harbor, there's one Japanese guy way up in the front, and he's looking down at the pier and he saw the stevedores tying up the ship and all that, and he looked hard, eh?¹²⁾ And then he turned around and he yell at everybody, "Hey, come look the haole stevedore!" And everybody rushed to the railing to see the haole doing stevedore work. Yeah, that's a true story. So, um, you see ah, poor haoles, beggars and all that. Yeah, there's lot of educational experiences about going to the Mainland, eh, for the first time. (IR-TT in KS#11)¹³⁾

この談話は、前半の回想内容と後半のコメント部分("Yeah, that's a true story"以下)で構成されるが、後半のコメントが示す通り、当時のハワイ日系人にとって支配階層としての haole の存在がいかに絶対的なものとして認識されていたかを示している。

ただ、上述のとおり、支配者階層としての haole を考える場合、それが必ずしも白人全般を指すとは限らない点に注意が必要である。以下の(6)・(7)では、haole と Portuguese が並置されており、IE が両者を別カテゴリーとして捉えていることがわかる。

- (6) Then you can see the difference — the haoles and some Portuguese — they think they good. They called us "Jap, Jap." (IE-TY#04)¹⁴⁾
- (7) We did have (haole classmates). Not many but we had a few. Not only haoles — had Filipinos, Hawaiians and some Portuguese. (IE-SF#03)¹⁵⁾

このような haole とポルトガル系移民と区別は、後者が農場ではルナと呼ばれる現場監督の任務に主に従事していたため生じたとされる (Reed, 2001:331)。ただ、サトウキビ産業の衰退や、1960年代以降、かつての白人に代わって日系、中国系が徐々にハワイ社会で勢力を増すようになったことから、次節で述べるように、支配者階層としての意味合いを意図しない haole の用法が次第に広がるようになる。¹⁶⁾

2.2. 白人一般を指す haole

Kenn (1944) は、白人一般を指す haole の用法が20世紀半ばには一般化していたと指摘しているが、本稿の日系人のインタビュー・データにおいても、以下の例のように、必ずしも支配者階層としてのカテゴリーを含意しない例が見受けられる。¹⁷⁾

- (8) Yes, yes. But K Company we had a haole leader and he was real nice, too. (IE-SF#12)

この例は、第二次世界大戦従軍時の回想の中で IE が白人指揮官に言及した部分であるが、接続詞 and が "we had a haole leader" と "he was real nice" に順接関係を持たせていることから、ここでの haole の使用は否定的意味を伴わないことがわかる。(cf. "we had a haole leader but he was real nice")

また、(9) は、Caucasian と haole が同義語として扱われた例である。

- (9) I believe it was a Caucasian outfit, haole outfit. (IE-KS#19)¹⁸⁾

Caucasianの場合、その定義は、"of, constituting, or characteristic of a race of humankind native to Europe, North Africa, and southwest Asia and classified according to physical features —used especially in referring to persons of European descent having usually light skin pigmentation" (*Merriam-Webster Online Dictionary*)とされており、haoleが持つ支配者階層を揶揄する意味合いを持たないとされる。したがって、ここでのhaoleの言い換えも、白人一般を意図した例として考えられるだろう。¹⁹⁾

2.3. local とhaoleの2項対立

1930年代から40年代にサトウキビ農場で繰り返されたストライキの中で生まれたlocalという労働者間の連帯意識を表現する概念は、かつては現地の支配者階層のhaoleと対峙する形で用いられていた。しかし、1960年代以降に始まる急激なハワイの都市開発の中で、次第にそれは地元ハワイの住民を指して用いられるようになり、一方、haoleは米国本土を含めた外部勢力としての意味合いを持つようになった(Okamura, 1980)。次の例は、インタビューの中でIEが共和党内における地元と米国本土との勢力争いについて言及した部分であるが、そのようなhaoleの用法が認められる。

- (10) ...but for the first time there is a pretty realistic fight going on in the Republican Party, between one group of kind of local guys and a large group of newcomers, you know, 10, 20 years here, who are running against the local Republicans. One group of haole Republicans running against these guys like Poepoe, Mike Liu, Pat Saiki. So they have some of their own problems. (IE-NY#21)²⁰⁾

ここでは、IEが地元候補者を"one group of kind of local guys"および"the

local Republicans"、そして、米国本土出身の候補者を "a large group of newcomers" と "one group of haole Republicans"、とそれぞれ言及していることから明らかなように、haole の使用は外的勢力としてのカテゴリーをその言及対象に付与しており、地元勢力である local との対比が行われていることがわかる。

以上、haole が持つとされる様々な社会的意味について具体的なコンテキストの中で検討を加えたが、それぞれの意味が言語表現や社会集団の中に直接見出されるというよりは、むしろ、個々の話者が状況に応じて指示対象に主観的意味づけを行っていることが明らかとなった。では、特定の状況下で同一話者が複数の類似表現をシフトさせるような場合、そこにはどのような話者の意図をを考察することができるであろうか。次節では、3 種類の用例を通して考えてい。

3. 同一状況下での名称の使い分け

3.1. Caucasian と haole の使い分け

類似表現が同一状況下で用いられる場合、まず、意味内容の明確化がその意図として考えられる。(11)は、学生としてカリフォルニアに滞在中であった IE が、日系人の強制移動の現場に遭遇した経験を回想した箇所である。

- (11) The only Caucasian that I saw helping the people were the minister and his wife. The rest of the haole that were there were all trying to take advantage of the situation—"I'll give you \$5.00 for your refrigerator." (IE-SK#25)²¹⁾

ここでは、苦境に立つ日系人に援助を行う白人を言及する表現として 中立的意味合いを持つ Caucasian (p.74) を、一方、それと対峙させる形で不条理な行動を取る白人の言及に haole を用いることで、IE はそれぞれの言及対象に付与する社会的カテゴリーを明確化させている。具体的には、"helping the people" と

"trying to take advantage of the situation"の対比が、上述の Whittaker が挙げた支配者階層としてのステレオタイプの中の、とりわけ haole が持つ "arrogant", "exploitative" などの意味合いを際出たせる役割を果たしているといえるだろう。

3.2. 帰属意識の変化と名称のシフト

次に取り上げる例は、カリフォルニアで生まれ育った日系2世のケースであるが、ここでは白人への言及が white で行われる場合と、haole で行われる場合が区別されており、前者がカリフォルニアでの IE の青年期までの回想に、後者は戦時中の日系人部隊配属時のエピソードにそれぞれ用いられている点から、話者の置かれた状況とアイデンティティの変化が名称の使い分けに関係する例として注目したい。

まず、(12)・(13)は、IE が自身や他の日系人が受けた人種差別を回想した箇所であるが、支配者階層としての白人への言及に white が用いられている。

(12) I used to run into trouble at such places as restaurants, where they won't serve you. ...we just didn't, in those days, associate with the White community. (IE-KT1-#01)²²⁾

(13) We knew we had to get an education to get ahead, and even that didn't help during the depression days, and after that, I saw many college graduates with even graduate degrees polishing apples in a fruit market in LA. You know, other White guys, they go right into a company, but these guys with degrees, it makes no difference. They're not going to get it, so they're polishing apples to become a fruit tender. (IE-KT#1-05a)

続いて、(14)・(15)は第二次世界大戦開戦当時に仲間の白人兵士たちとの交流を通してIEが感じた連帯感について語られる部分であるが、社会階層的意味合い

は伴わないものの、ここでも white が使用されている。

(14) There was a lot of discrimination against Blacks, but we were just taken in with the White troops and lived, trained, and so forth. (IE-KT#1-05b)

(15) I drank about, oh, I remember about seven or eight. I don't remember how I got back to the barracks. My buddies, I guess, carried me home, all White soldiers. They weren't saying anything about Japan. (IE- KT#1-14)

これらの例では、支配者階層としての成員カテゴリー付与の有無にかかわらず一貫して white が用いられていることから、当該 IE が white を白人言及の際の規範的名称として認識していることがわかる。

しかしながら、同話者は、その後戦時中に配属された日系人部隊について語る場面では、白人への言及を以下のように white から haole へとシフトさせる。

(16) Only thing that rankled me was that they were commissioning only haole guys. We didn't know anything and... They weren't anything. They couldn't do any language work without the Nisei. They couldn't stand up by themselves, but they were commissioning them as language officers. I think Harry knows. He had a haole —they can't stand by themselves. (IE-KT#2-03a)

(17) Well, I knew that it (=MIS: Military Intelligence Service) was something very valuable, because if you think about how many linguists in the United States were "haoles"? You can count them on your 10 fingers who are truly linguists. (IE-KT#2-03b)

ここでは、自らが所属した米国陸軍情報部において日本語能力が日系人よりも劣る白人が重用されたことに対する不満をIEは述べているが、談話中IEがhaoleとNiseiを対峙させることでエスニシティを前景化し、haoleに支配者階層としての意味合いを付与すると同時に、自身の日系2世集団への帰属意識も表明していることがわかる。

3.3. 会話参与者間のアイデンティティの交渉

第3者の言及方法を巡っては、必ずしも会話参与者間で認識が一致するとは限らない。(18)は、選挙における投票動向についてエスニック集団が話題となっている部分であるが、IRとIEが投票者に言及する際に、それぞれ異なった文体を用いている点に注目したい。

(18)

IE: They all moved. You know, all the Japanese used to live in Waianae, Waipahu, Waialua. ...They thought that all haoles lived this side!

IR: In terms of race voting, the poll that came out today said that Hawaiians as a group have the lowest proportionate voter turnout of all groups in the State....

IE: Actually I think the Caucasians in Hawaii vote strongly as a race, not the Japanese or the Hawaiians or the Filipinos. But Pat Saiki is fortunate because her biggest base are the Caucasian voters.

(IR-JT, IE-NY#18-19)²³⁾

Bailey(2002)は、会話参与者が常に互いのアイデンティティ交渉を進行中の談話の中で行うと指摘しているが、ここでは、IEがhaoleを用いることで白人陣営との距離を置き、日系人IRとの連帯感を示す立場を取ろうとしているのに対し、IRは報道文体を用いることで客観的・中立的立場を取ろうとしていることがわかる。²⁴⁾ この互いに対する立場認識の違いが、続くIEの発言における

haoleからCaucasianへのシフトを促すこととなるが、このように第3者の言及方法は会話参与者間の立場関係の交渉にも関係するのである。当該インタビューは、日系人団体が実施したものであることから、IRとIEの間には内集団としての成員カテゴリーがある程度暗黙の了解として想定されているが、このケースでは、制度的会話としてのインタビューの中での自らの役割を意識したIRが、IEの提示した立場設定を退けることで、進行役としての中立の立場を保持しようとした可能性が考えられる。(cf. Heritage, 1985)

おわりに

本論は、ハワイ社会において主に白人を対象として用いられるとされるhaoleを巡って考察を進めた。分析データは、米国ハワイ州Japanese Cultural Center of Hawaiiで日系人を対象に行われてきたOral History Interviewsを用い、具体的コンテキストの中でのhaoleの用法に焦点を当て分析を行った。その結果、(1)haoleの用法が人種、民族のみならず社会経済的要因にも大きく依存することから、様々な社会的カテゴリーの付与がそれぞれの状況に応じて行われること、(2)同一状況下でのhaoleと類似表現の使い分けが、haoleの意味の明確化や話者のアイデンティティ表明、会話参与者間の立場関係の交渉に関係することが、それぞれ明らかとなった。このように、言語によって示されるアイデンティティは状況に応じて柔軟に運用される。したがって、他者への言及によって生じる社会的カテゴリー付与の問題は、とりわけhaoleのようにその意味がコンテキストに大きく依存するような場合、言語と言及対象のみを考察対象とするのみならず、具体的に状況づけられた相互作用の中で会話参与者間のアイデンティティ構築過程も視野に入れて分析することで、より包括的な形でその特性を明らかにすることができるといえるだろう。

註 釈

- 1) 本稿は、2008年5月29日に米国ハワイ州Japanese Cultural Center of Hawaiiで行った口頭報告Kinoshita(2008)に加筆・修正を加えたものである。
- 2) 近年においては、集団間の境界に焦点を当てたBarth (1969) や、アイデンティティ構築のプロセスに着目したBailey (2002)、間主観性を軸としたアプローチを提唱するBucholtz and Hall (2005)など、より動的に言語とアイデンティティとの関係を探ろうとする研究が活性化している。
- 3) 文献上haole, Haoleの両表記が認められるが、本稿では、引用部を除き、haoleで統一することとする。
- 4) データ分析は、Japanese Cultural Center of Hawaii Resource Center所蔵のOral History Collectionのトランスクリプトを用いて行われた。このコレクションは、ハワイ在住の日系2世を主な対象として行われたインタビュー集で、1980年代から1990年代前半に医師グループやThe Buddhist Centerによって行われたもの、そして、90年代以降にJapanese Cultural Centerによって行われたもので主に構成されている。データ全体の件数は2008年5月時点で約150であるが、今回の分析は、それらの中で既にオンライン化が行われた55件を対象として行われた。
- 5) <http://www.merriam-webster.com/netdict.htm>
- 6) 語源をbreathless、spiritlessとする説もあり、議論の余地はあるとされる。
- 7) 本稿の分析では、調査対象が語彙選択を巡るものであるため、会話分析で用いられる記号は省略した。また、例示に注記されたIEは被験者を、IRは面接者をそれぞれ指す。
- 8) 1924年生まれの日系2世（男性）。
- 9) 1940年生まれの日系3世（男性）。
- 10) "...the linguistic elaborations and qualifications they (=referential identity categories) attract (predicates, modifiers, and so on) all provide important information about identity construction." (Bucholtz and Hall, 2005:594)
- 11) "Identity may be in part intentional, in part habitual and less than fully conscious, in part an outcome of interactional negotiation, in part a construct of others' perceptions and representations, and in part an outcome of larger ideological processes and structures."(Bucholtz and Hall, 2005: 585)
- 12) Lurlineは米国が第二次世界大戦中に使用した兵員輸送船。
- 13) 1920年生まれの日系2世（男性）。
- 14) 1923年生まれの日系2世（男性）。

- 15) 1919年生まれの日系2世 (男性)。
- 16) ただし、ステレオタイプは時代を越えて繰り返し用いられる点に注意が必要である。
- 17) "...today, in a very general way, haole does not necessarily connote a negative thought... The word has come to refer to one of nordic descent, whether born in Hawaii or elsewhere." (Kenn, 1944:16)
- 18) 1918年生まれの日系2世 (男性)。
- 19) インタビュー・データには、他にも以下に挙げるような日常的用例が見られた。
- a. IE: My name is (Japanese name). IR: No haole name?
- b. At school, there were no haole kids?
- 20) 1919年生まれの日系2世 (男性)。
- 21) 1920年生まれの日系3世 (男性)。
- 22) 1918年生まれの日系2世(男性)。カリフォルニア州出身。
- 23) IRの出生年不詳。(日系女性)。
- 24) "Interlocutors publicly display and continuously update for each other their on-going understandings of talk — including identity negotiations — as talk unfolds turn by turn, thereby making these negotiations of meaning visible for analytic treatment by social scientists." (Bailey, 2002:31-2)

参考文献

- Bailey, B. (2002). Language Alternation as a Resource for Identity Negotiations among Dominican American Bilinguals. In P. Auer, ed., *Style and Social Identities: Alternative Approaches to Linguistic Heterogeneity*. Berlin and New York: Mouton de Gruyter, pp.29-56.
- Barth, F. (1969). *Ethnic groups and boundaries. The social organization of culture difference*. Oslo: Universitetsforlaget.
- Bucholtz, M. and K. Hall (2005). Identity and interaction: a sociocultural approach. *Discourse Studies*, 7, 585-614.
- Gumperz, J. J. (1982). *Discourse Strategies. Studies in Interactional Sociolinguistics*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Heritage, J. (1985). Analyzing News Interviews: Aspects of the Production of Talk for an Overhearing Audience. In T.A. van Dijk, ed., *Handbook of Discourse Analysis, vol.3*. London: Academic Press, pp.95-117.

- Kenn, C. (1944). What is a Haole? *Paradise of the Pacific, August 1944*, 16.
- Kinoshita, H. (2008). Language and Ethnicity Issues in the Nisei Oral History Interviews. *Oral Technical Report Presentation*. The Japanese Cultural Center of Hawaii, Honolulu, HI. May 29.
- Ohnuma, K. (2002). Local Haole — A Contradiction in Terms — The dilemma of being white, born and raised in Hawai'i. *Cultural Values*, 6 (3), 273-285.
- Okamura, J. (1980). Aloha Kanaka Me Ke Aloha 'Aina: Local Culture and Society in Hawai'i. *Amerasia*, 7 (2), 119-37.
- Okamura, J. (1994). Why There Are No Asian American in Hawai'i: The Continuing Significance of Local Identity. *Social Process in Hawaii*, 35, 161-177.
- Reed, G. (2001). Fastening and Unfastening Identities: negotiating identity in Hawai'i. *Discourse: Studies in the cultural politics of education*, 22 (3), 327-339.
- Whittaker, E. (1986). *The Mainland Haole: The White Experience in Hawaii*. New York: Columbia University Press.